

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 73 号

## Impact of anti-doping education and doping control experience on anti-doping knowledge in Japanese university athletes: A cross-sectional study

(日本人大学生アスリートにおけるドーピング・コントロール及びアンチ・ドーピング教育経験がアンチ・ドーピングの知識に及ぼす影響：横断的研究)

室伏 由佳 (むろふし ゆか)

博士 (スポーツ健康科学)

### 論文内容の要旨

これまで日本人オリンピック・パラリンピアン・アスリートのアンチ・ドーピング規則違反者は僅かであるが、それでも日本人全体では毎年違反者の報告がなされている。日本では、トップレベルのアスリートの多くを大学生アスリートが占めている。そのため、大学生アスリートがアンチ・ドーピング規定 (Code) に基づくアンチ・ドーピング (AD) の正しい知識を身につけ、適切な判断ができるよう求められている。しかし、大学生アスリートにおける AD 教育経験や知識の実態は明らかにされていない。そのため、これまで行われてきた AD 教育における学習経験が適切な知識の定着に結びついているのかが不明のままとなっている。そこで、本研究では、これまで実態が明らかにされてこなかった日本人大学生アスリートの AD 知識の実態を把握し、ドーピング・コントロール及び AD 教育と AD 知識との関連を明らかにすることを目的とした。

日本のスポーツ系大学の大学生アスリート、男子 514 名 (Mage = 19.53、SD = 1.13)、女子 629 名 (Mage = 20.99、SD = 1.07)、合計 1,143 名を対象に、ドーピング・コントロール経験、競技水準、AD 教育経験回数について調査を行った。AD 知識の評価は、世界アンチ・ドーピング機構 e-ラーニング ALPHA 帰属のテスト問題 (12 問 4 択; 合格指標 9.6 点) を用いて比較を行った。

分析の結果、ドーピング・コントロール経験者は全体の 2.54%、AD 教育の経験回数 1 回のアスリートは 30.10%、2 回以上は 20.82%であった。ALPHA 全体の得点は平均 7.75 点 (±2.30) で合格指標を下回る結果だった。ドーピング・コントロール経験を有する群と経験を有していない群との間では、有意な差は認められなかった。競技水準間では、全国大会レベル群が地区大会レベル群 ( $p = .05$ ) および、国際大会レベル群 ( $p = .05$ ) より優位に平均得点が低かった。AD 教育経験回数間においては、AD 教育経験が 2 回以上ある群は、教育経験のない群 ( $p = .01$ ) や教育経験 1 回の群 ( $p = .05$ ) と比較して有意に得点が高かった。

これらの結果から、大学生アスリートの AD 知識向上のためには、少なくとも 2 回以上の教育機会を提供する必要があると言える。一方で、ドーピング検査経験は AD の知識には影響を及ぼさず、ドーピング・コントロール経験のみでは適切な知識を身につけることには繋がらないことが示された。本研究は、AD 教育の有用性と、AD 教育的介入の必要性を示唆するものであり、スポーツ健康科学分野の国際的な研究テーマである AD の啓発に貢献する研究として位置付けられる。